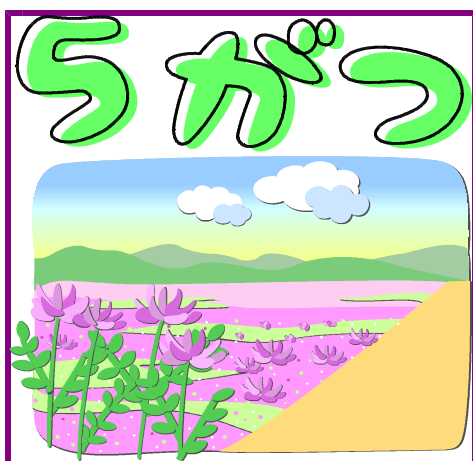


めぐみイエス・キリスト教会

2023年5月14日(日)第二主日礼拝

午前10時より

週報「通算第657号」



2023年標題聖句

第 I ヨハネの手紙第5章4節～5節

《神から生まれた者はみな、世に勝つからです。私たちの信仰、これこそ、世に打ち勝った勝利です。世に勝つ者とはだれでしょう。イエスを神の御子と信じる者ではありませんか。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】		
【賛美Ⅰ】	新聖歌420「雨を降り注ぎ」	p. 676
【交読文】	No.30 詩篇第96篇	p. 903
【賛美Ⅱ】	新聖歌416「聖霊来たれり」	p. 668
【使徒信条】		
【主の祈り】		
【先週説教】		
【賛美Ⅲ】	オリジナル曲No.1「聖霊の風」	
【聖書朗読】	使徒の働き25章13節～27節(新約p. 288)	
【礼拝説教】	《アグリッパ王とベルニケ》	
【聖餐式】		
【賛美Ⅳ】	新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」	p. 236
【平和祈り】		
【頌 栄】	新聖歌63 「父・御子・御霊の」	p. 85
【祝祷後奏】		

●ポイント1.「アグリッパ王とベルニケ」とは？

■アグリッパ アグリッパ2世。マルクス・ユリウス・アグリッパがローマ名。ヘロデ・アグリッパ1世(紀元39年～44年・使徒ヤコブを殺害し、ペテロを捕らえ、虫に噛まれて死んだ王)の息子として紀元27年に生れた。ヘロデ大王の曾孫。ベルニケとドルシラ(総督ペリクスの妻)の兄。ローマの宮廷で育ち、生涯親ローマの立場をとった。紀元44年に父が死んだ時、彼がまだ若すぎる(当時17歳)という理由で、皇帝クラウディウスはユダヤを総督の支配下においた。しかし48年、アグリッパはおじのカルキス王ヘロデ・ピリポ(ベルニケの夫)の死に伴い、その領地を継承し、王となった。52年にはパレスチナ北部のずっと広い領地が与えられ、さらに56年には皇帝ネロからガリラヤとペレヤの一部を受けた。それに感謝して、首都ピリポ・

カイザリヤをネロニアスに改名した。紀元48年～66年、大祭司を指名する権限を行使し、ローマとユダヤ人の間に立って反ローマの反乱が起るのを防ごうとした。フェリクスに代ってフェストゥスがユダヤ総督になった時、妹のベルニケと共にカイザリヤに表敬訪問をし、そこでパウロと出会う。紀元66年にユダヤ戦争が起ってからローマ側に立ち、戦後領土拡張をもって報いられた。紀元100年頃ローマで没したものと思われる。

■ **ベルニケ** ヘロデ・アグリッパ1世の2番目の子で、ドルシラの姉で、紀元28年に生れた。絶世の美女と言われ13歳の時に自分のおじのヘロデ・カルキス王と結婚した。彼が48年に死んだ後、自分の兄のアグリッパ2世と近親相姦の関係を持つようになった。そのうわさを否定する為に、キリキヤの王ポレモンと結婚したが離婚し、兄のアグリッパ2世の所に戻ってしまった。その時に、総督フェストゥスから持ち出されたパウロの上诉状の件で、ベルニケはアグリッパ2世と一緒にパウロの弁明を聞いた。ベルニケの妹のドルシラも、前任者フェリクスの妻として、以前にパウロの弁明を聞いていた。ベルニケは、後にローマ皇帝ヴェスパシアヌスの側女になり、彼が没すると、皇帝を引き継いだその子ティトゥスの側女となった。

● **ポイント2.「前々国王ヘロデ・アンティパスへの悔い改めの機会」とは？**
※ルカの福音書23章6節～11節「ピラトとアンティパス」(新約p.285上段)

23:6 それを聞いたピラトは、この人はガリラヤ人かと尋ね、

23:7 ヘロデの支配下にあると分かったら、イエスをヘロデのところへ送った。ヘロデもそのころ、エルサレムにいたのである。

23:8 ヘロデはイエスを見ると、非常に喜んだ。イエスのことを聞いていて、ずっと前から会いたいと思ったり、またイエスが行うしるしを何か見たいと望んでいたからである。

23:9 それで、いろいろと質問したがイエスは何もお答えにならなかった。

23:10 祭司長たちと律法学者たちはその場において、イエスを激しく訴えていた。

23:11 ヘロデもまた、自分の兵士たちと一緒にイエスを侮辱したり、からかったりしてから、はでな衣を着せてピラトに送り返した。

◎先週の礼拝メッセージ【パウロとフェストゥス】

《パウロが監禁されてから2年が経ちました。その間に、皇帝ネロはフェリクスに代えてフェストゥスをユダヤの総督に任命します。

さて、前任者フェリクスと後任者フェストゥスの引き継ぎがカイサリアにおいて行なわれました。当然パウロのことも引き継がれたのです。

数日後、エルサレムにフェストゥスが到着しますと、早速、祭司長たちとユダヤ人指導者たちが、パウロのことを告訴して来ました。そして、パウロをエルサレムに呼び寄せて欲しいと懇願したのです。

実は、これは表向きであって、彼らは待ち伏せして、途中でパウロを殺そうと計画していたのです。しかし、フェストゥスはこう言います。「パウロはカイサリアに監禁されているし、自分も間もなく出発する。その男に何か問題があるなら、おまえたちの中の有力者たちが私と一緒に下って行って、彼を訴えればよい。」と。

しかたなく、祭司長や指導者たちは、フェストゥスと共に、カイサリアに下って行きます。この時にも、神様はパウロを守られたのです。

翌日、フェストゥスは裁判の席に着いて、パウロに出廷を命じます。すると、ユダヤ人たちは立って彼を取り囲んで、多くの重い罪状を申し立てましたが、しかし、それを立証することはできませんでした。「私は、ユダヤ人の律法や宮に対しても、またカエサルに対しても、何の罪も犯してはいません。よって、私はカエサルに上訴します。」

「おまえはカエサルに上訴したのだから、彼のもとに行くことになる。」

こうして、パウロが計画していた方法ではなく、全く異なった方法ですが、パウロのローマへの道が開かれたのです。

私たちには、事の全貌は見えません。しかし、主は全部お見通しです。主は、私たちに取って何が最善なのかを、ご存知です。大切なことは、何時もこのお方を心から信じ信頼し続けることなのです。》

◎お知らせ

※次回第三主日礼拝は、5月21日(日)午前10時からです。5月28日は、ペンテコステ(聖霊降臨日)礼拝となります。